

◆【全国発信記事】尾道支部

新造船「第十一こくさい丸」就航 ―国際両備フェリー株式会社―

爽やかな海風の吹く 7 月 21 日、瀬戸内海の香川県・高松港～小豆島・池田港を結ぶ航路に、国際両備フェリー株式会社の新造船「第十一こくさい丸」が就航した。

この航路には、第一こくさい丸（愛称＝パンダ）と第三十二こくさい丸（愛称＝キリン）の 2 隻が、1 日 11 往復 22 便で運航していたが、新造船「第十一こくさい丸」が就航することで、長きにわたり島の重要な生活航路の役割を担ってきた第三十二こくさい丸が引退し、バトンを新造船に引き継いだ。

新造船「第十一こくさい丸」の白い外板は、虹のようなカラフルなペイントが施されている。アッパーデッキには愛称の「しまぞう」にちなんだ水色の象が、天に鼻を突き出すように形づくられ、その外観は「海上の遊園地」の雰囲気を醸し出している。

船内設備も充実しており、従来に比べて大型の空調装置による強制換気システムを搭載することで、感染症予防にも配慮。さらに、船首側と船尾側にエレベーターを設置することで、バリアフリーを充実させた。通路やすべての座席の間隔にもゆとりを持たせ、乗客が快適な船旅を満喫できるよう設計されている。

貸切スペースとして利用可能な展望ラウンジに加え、デッキにはメリーゴーランドやブランコなど、女性や子どもに配慮した空間も。

高松港～小豆島（池田港）航路を 1 時間で結ぶ「第十一こくさい丸」は、短い船旅ではあるが、快適な船として活躍することが期待されている。

「海員だより」